

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度第 1 回高松市環境審議会
開 催 日 時	令和元年 8 月 19 日 (月) 14 時 30 分 ~ 15 時 50 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	議 題 (1) 高松市環境基本計画の平成30年度取組状況について (2) 環境基本計画の中間見直し等について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	13 人 三野 靖 (会長) 生嶋 暹、石川 恵美子、桑井 弘之、小松 秀雄、平 篤志、 多川 正、野崎 千恵、原内 純治、藤川 利弥、藤本 智子、 間嶋 典子、元木 泰史
欠 席 委 員	2 人
傍 聴 者	1 人 (定員 10 人)
担 当 課 及 連 絡 先	環境総務課 (TEL839-2388)

### 審議経過及び審議結果

#### 議 題

- (1) 高松市環境基本計画の平成 30 年度取組状況について  
(2) 環境基本計画の中間見直し等について

事務局から、平成 30 年度の取組状況について内容を報告した後、意見交換が行われた。

#### (委 員)

家庭における地球温暖化防止のための取組の実施率について、アンケート結果に基づいて平成 30 年度の実績が E 評価ということで、この評価に至った内容、アンケート結果の分析を教えていただきたい。また、この結果を、一般の方に説明する際に、評価が低いということだけでは意識にも影響する。今後はどのように見直していこうとしているのか。

#### (事務局)

このアンケートは、家庭における地球温暖化防止のための取組に関する 13 の項目で実施しており、目標値を高く掲げているとは思っていないが、評価は低迷している状況である。平成 26 年度から同様の項目で実施していることに加え、総合計画に同数値を用いていることから、現段階での実施内容の見直しは

困難である。

アンケート結果の分析として、住宅用太陽光発電や HEMS、高効率給湯器の導入に関しては、各家庭における負担が大きいため、あまり普及しておらず、LED 照明などの比較的負担額が小さいもの程、取り組みやすくなっていると分析している。

高松市の地球温暖化対策においては、家庭、運輸部門への取組が大きなウェイトを占めている。今後も COOL CHOICE キャンペーン等を通じて普及啓発していこうと考えている。

(事務局)

付け加えるが、昨今、クールビズで夏場にネクタイをしないというのが当たり前になっているが、当初、夏場でもノーネクタイで外部を訪問するのは「大変失礼に当たる」という意識が少なからずあった。しかし、毎年クールビズを実施することにより、無意識のうちにノーネクタイが当たり前になったと思う。そういった古い意識を変えるというのは、かなりの時間を要する。

(委員)

産業廃棄物の不適正保管量について、いつまでに 0 に到達するかということとは別として、新しい目標値は更に厳しくして良いのでは。

(事務局)

産業廃棄物の保管量が法で定められているが、収集運搬業や許可を得ている事業者以外に、自己の工事等で出た廃棄物を事業所内に溜めているという状況がある。

事業を継続している場合や、廃棄物の出し入れがある場合は搬出する量を増やす様に指導できるが、既に事業を廃止している場合や、事業者が不在であるなどの様々な状況がある。そういった状況を踏まえて、これ以上目標値を厳しくすることは考えていない。

(会長)

悉皆調査はできているのか。

(事務局)

近隣住民の通報からの把握、検査も含め年間複数回のヘリコプターからの上空監視も実施している。また、6月の環境月間には、海上保安庁の協力を得て巡視艇を用いた海側からの監視で把握に努めている。

(委員)

「小学校校庭の芝生化実施校数」について、平成 30 年度実績値が 17 校、令和 5 年度目標値も 17 校となっているが、どういうことか。

(事務局)

校庭の芝生化が進んできた中で、学校側の負担や維持管理の面で様々な課題・問題点が浮き彫りになっている。現在、それらを解決し、推進する方法は何かということを一且立ち止り検討するという状況にあり、校庭の芝生化が完了している学校については、現状維持していくということ。

(委員)

前任校では、校庭が芝生化されていた。児童達も裸足で運動場に飛び出し、運動量が増えたように感じ、環境面では涼しさや心地よさを味わえたと思う。もちろん、芝生化のメリットがあった訳だが、日々のかん水、雑草の除去や夏場の芝刈り等、維持管理に非常に手間が掛かるのも事実である。その辺り、どちらをとるか難しいと思う。

(委員)

当初の目標値と見直し目標値の算出の仕方だが、例えば「1人1日当たりのごみ排出量」は達成率115.6%のA評価で、新たに目標値を6g/人・日下げているのに対し、「1人1日当たりの資源化量」はE評価で新たに目標値を15g/人・日下げている。もう少し目標値を下げてもいいように見えるが、見直し目標値の算出の根拠はどうなっているのか。

(事務局)

指標の目標値は各担当の所属において、施策の状況に応じ設定しているもので、統一して、基準値や目標値を環境基本計画の中で設定しているものではない。1人1日当たりのごみ排出量や資源化量は、平成30年度3月に策定の高松市一般廃棄物処理基本計画の中で掲げているごみ排出量の将来推計値を基準とし、今後の人口変動に応じた数値を算出したものである。

(委員)

「ボランティア清掃の参加者数」は達成率1,741.0%のA評価だが、これは何か画期的な対応があったのか。

(事務局)

クリーン作戦の開催数が増えたことが影響している。

(委員)

家庭における地球温暖化のアンケートはどのような方法で実施しているのか。加えて、回答率やアンケート回収数に大きな変動はあるのか。

(事務局)

実施方法については、住民基本台帳から無作為に抽出した1,000名の対象者に対して、郵送によりアンケートを送付している。回収率は50%を上回っている。

る。

(委 員)

各基本目標の総括・課題に対する今後の取り組みに「引き続き継続する」とあるものについては、これ以上、新しい対策が考えられない状況なのか。また、指標の中には「削除」としたものがあり、内容は理解できるが、安易に削除してしまうのはもったいないように感じる。

最後に、小学校校庭の芝生化において、今後の現状維持に関する対策はどうするのか。

(事務局)

今回は計画の中間見直しということで、事業の現状や制度改正等による削除や一部見直しを行うものである。どの程度まで見直しを行うかという問題もあるが、計画当初の方向性を維持しつつ、成果等を踏まえ引き続き継続することにより、次の環境基本計画での新しい取り組みに繋げようと考えている。

小学校校庭の芝生化については、今後、教育委員会において必要な予算措置や、維持の面での対応を検討していく。

(会 長)

各年度の予算措置や、来年度以降、施策として実施しないというのがある程度具体化している印象を受けたが、そういう背景はあるのか。

(事務局)

予算措置は未定であるが、実施したくともできないという場合もある。例えば、「合併処理浄化槽補助件数」では、国の方針が既存の単独浄化槽から合併浄化槽への転換を重点化することとなったため、本市においても新設に対する助成を廃止しており、現実離れした数字をそのまま掲げておく訳にはいかず、今回、目標値を見直している。

(会 長)

水環境基本計画の成果指標の取り扱いについて、主要な指標を参考値として記載とあるが、この「参考値としての記載」とはどういうことか。

(事務局)

あくまでも水道企業団の事業であり、本市施策と密接に関連する要素があるとはいえ、管理できない部分がある。しかし、非常に重要な数値に変わらないので、自己処理水の比率等の数値を提供いただき、環境基本計画の進行管理ではないが、環境白書等に記載しようと考えている。

(会 長)

参考値は、高松市地域の数値ということか。

(事務局)

現段階では、高松市域の数値を提供いただく予定だが、今後、企業団では綾川町・三木町を含めた1市2町を高松ブロックセンターとして運営していく予定である。高松市域の数値をどこまで管理でき、情報提供いただけるか、企業団と協議する中で検討していきたい。

(会 長)

どうしようもない部分はあると思うが、例えば三木町、綾川町と高松市の水道管は繋がっているのか。繋がっていないのならば、数値を出すことは難しくはないのではないか。

(企業団)

現在、水道管は繋がっていない。ブロックセンター化以降は、2町を含めた高松ブロックの数値を公表する予定だが、区分整理期間を10年間設けており、その間は高松事務所から高松市域の数値を提供することが可能である。

(会 長)

上水道というのは「生命の源」として、日々の生活に欠かせないものである。営業体制が広域化されたことと、高松市民が自分たちの上水道の状況を知ることとは全く違うので、配慮の程お願いしたい。